

中村小学校における児童との意見交換会 平成27年6月26日実施

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
1	<p>教育委員会は、どのような仕事をする会で、なぜ作られたのですか。</p>	<p>教育委員会は練馬区役所の中にあり、区役所が行っている仕事のうち、教育と子供に関する仕事を専門的に行っています。</p> <p>例えば、学校教育に関する仕事としては、皆さんが使う教科書を決定したり、校舎や体育館等を建てたり修繕しています。また、皆さんが使っている机や椅子、エアコンやトイレなどの設備を整えたり、新しいものにかえたりしています。中村小学校の自慢の芝生も、教育委員会で決定して整備しました。</p> <p>さらに、練馬区では平成24年度から、小中学生だけでなく、生まれてから18歳ぐらいになるまでの子供全体に関する仕事を教育委員会が行うことになりました。保育園や学童クラブなどについても教育委員会の仕事となっています。このほか、練馬区の子供たちが健やかに成長し、よりよい教育を受けることができるようにするにはどうしたらよいかということ、5人の委員が話し合い、実現していくことが教育委員会の大きな仕事となっています。</p> <p>また、教育委員会の仕事は種類が非常にたくさんあるため、教育委員会には事務局という組織があり、実際の仕事は、事務局の職員が行っています。</p> <p>このように、練馬区の全ての子供たちが健やかに成長してよりよい教育を受けることができるようにするために、教育委員会はつくられています。</p>
2	<p>なぜ中村小学校では割れやすいお皿を使っているのですか。</p>	<p>練馬区でも、ずっと以前、給食が始まった頃は、金属製の食器で給食を食べていました。金属製の食器は、熱いものを入れるととても熱くなるため、持ったり触れてしまったときにとても危険です。また、手で持てないため持ち上げて食べるができなくなり、その結果、どうしても机の上に置いて、自分の顔や口を食器に近づけて給食を食べることになってしまいます。そうすると、姿勢が悪くなり、食べづらいため、改善しなければならぬということになりました。そこで、確かに金属製やプラスチックのお皿に比べると割れやすいという難点はありますが、今使っている陶磁器の食器を使うようになりました。</p> <p>今使っている食器は有害物質もなく大変すばらしい食器です。皆さんの家庭と同じような雰囲気の中で学校の給食を食べることができているのではないかと思います。温かみのあるすばらしい陶磁器の食器ですが、乱暴に扱おうと壊れてしまいますので、やさしく丁寧に扱っていただきたいと思います。また、陶磁器は料理を引き立てる役割も持っています。おいしい給食を楽しく味わいながら召し上がっていただけたらと思います。</p>

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
3	<p>中村小学校は校舎も広く、人数を多いのに、どうして本の数が少ないのですか。</p>	<p>学校の図書室の本には、子供の数に応じて、この程度の本があったほうがよいだろうという一つの目安があり、これに基づいて本の整備をしています。中村小学校は子供の数が多いため、ほかの学校よりも多めに本を整備しています。しかし、練馬区立の図書館と比べると、本の数は確かに少ないと思います。</p> <p>毎年、練馬区では新しい本を買うためのお金をそれぞれの学校に配っています。このお金は、たくさんの方の区民の皆さんが納めている税金で賄われています。そして、税金は、練馬区で行っているさまざまな事業に使われています。例えば、教室にある机や椅子を買ったり、学校の建物やトイレが壊れたときの修理に使ったりと、いろいろなことに使われています。</p> <p>税金には限りがあり、いろいろなことに使わなければならないため、皆さんが読みたいと思う本の全てを買うことはなかなかできません。そこで、たくさんある本の中から、小学生である皆さんに読んでもらえたらよいと思われる本を先生方が選んで買っています。調べ学習が必要だと思う本や読みたい本、子供たちに人気のある本などがありましたら、ぜひ先生に相談してみてください。</p>
4	<p>外国の人や来日して間もない方の中には日本語がわからない方もいるのに、英語の講師として外国の方を採用したのはなぜですか。</p>	<p>まだ日本語で話ができない人や、あまり日本語ができない人を採用するのは、その国の言葉と話している人と会話することが、一番私たちの勉強になるからです。小学校の外国語活動の授業では、英語を使ってコミュニケーションをとったり話すことで、進んで英語を使うようになり、外国人と話せるようになります。また、ほかの国のことを学ぶこともねらいとしています。日本語がわかる先生ですと日本語で話しかけてしまいが、日本語がわからない方であれば一生懸命英語で話します。まだ日本に慣れていない先生は、自分の国のことについても日本人に合わせて話すのではなく、自分の言葉で話してくれるため、いろいろなことが勉強できます。</p> <p>練馬区の中学校には、以前から外国人の先生が英語の授業に入っています。皆さんの先輩にあたる中学生に、「学校の廊下で外国人の先生に英語で話しかけられたらどうしますか。」と質問をすると、80%の子供たちが「英語で会話しようと思う。」と答えたそうです。外国人の先生が英語の授業に入ることで、自分から進んで英語で話しかけられるようになり、本当の意味で会話ができるようになってきたりするため、外国人の方に先生をお願いしています。</p> <p>5年後の2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、大勢の外国人が応援や観戦に来ます。皆さんは外国の方々とコミュニケーションをとる機会があると思います。そのときまで頑張って勉強していただき、外国人の方と自然に話ができるようになってください。</p>

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
5	なぜ、英語のネイティブの先生は毎回来ないのですか。	<p>練馬区の小学校の外国語活動という段階では、いきなりネイティブの外国の人と直接話をするよりも、担任の先生と一緒にあって、そして日本語のコミュニケーションを通して英語のコミュニケーションを磨いていくという段階を経たほうがよいと思っています。毎回ネイティブの先生が来るのではなく、担任の先生も含めた日本の先生たちに、まずはしっかりと英語の基礎や外国語の様々な活動を授業の中で行っていただきたいと考えています。</p> <p>外国語活動の授業の中では、1人の先生が教えることが多いと思いますが、中には2人で教えたほうがよい場合もあります。そのような場合にだけ、ネイティブの先生をお招きして、皆さんと一緒にあって授業を行うことにしているため、毎回は来ていません。</p> <p>ただし、できるだけ外国の人とたくさん話をしたいという皆さんの思いは、本当に大事なことだと思います。学校に限らず、例えば、道端で外国の人に会ったら、親切に「何かお困りですか。」と声をかけられるよう、そして、しっかりと会話ができるように、ぜひ勉強して行っていただきたいと思っています。また、外国の人と話をし、自分の英語が通じたときの喜びは、何ものにも代えがたい思い出になると思います。積極的に自分が習った英語を使って、いろいろな人と話をしてみてください。</p> <p>練馬区の中学校では、今、ALT、ネイティブの先生方を頻繁に招いて授業を行っています。皆さんの外国語の基礎力がどんどん高まってくれば、小学校でもネイティブの先生を増やしたいとも思っています。ぜひ頑張ってください。</p>
6	なぜ、教室にあるテレビは地上デジタル放送が映らないのですか。	<p>昔は、教室にあるテレビを使って授業を行っていたことがあります。しかし、画面が小さく後ろの人が見づらくなってしまったため、今は使っていません。</p> <p>これからは、コンピューターを使った授業をもっと広げていきたいと思っています。例えば、iPadのようなタブレットを皆さんが各自持ち、先生が大きな画面に授業で使ういろいろなものを映すことで、皆さんはそれぞれ自分の机の上のタブレットでそれを確認しながら授業を受けるという方法も行っていきたいと思っています。</p> <p>しかし、そこまで一飛びに実現するのはなかなか難しいため、これから一つ一つ準備を重ねて、そのようにしていきたいと思っています。今の時代に合った新しい、そして、将来の時代に備えた、コンピューターやパソコン・タブレット端末を使った教育を、各授業でできるようにしていきたいと思っています。</p>

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
7	何を基準に教科書の内容を決めているのですか。	<p>教科書をつくる基準としては、国が、特に文部科学省が学習指導要領を定めています。この中で、何年生にはどのようなことを教えるのかということが、小学校、中学校、高等学校などの教科や領域ごとに全て示されています。</p> <p>例えば、国語で考えると、6年生の1年間に漢字は181文字を新しく勉強します。自分の考えをまとめてみんなと討論できるということや、伝記を読んで自分の生き方について考えたり、またそのような先人のことを調べたりと、その学年で何を学ぶのかということが学習指導要領に示されています。これはどの教科・領域も同じです。</p> <p>もし皆さんが、小学校6年間と中学校3年間の合わせて9年間の日本の義務教育を終えて、中学を卒業した後、社会に出たとしても、何も困ることはありません。小学校と中学校でしっかり学んだことで、職場で年上の人や役職のある人ともしっかりとお話ができますし、指示されたことも理解ができます。ニュースや新聞を教材として活用することで、新聞を読む力も身につけることができます。また、万が一、一人で生活しなければならなくなったとしても、小学校5年生から学ぶ家庭科の授業を通して、自分の食べるものは自分でつくることができます。万が一ボタンがとれてしまっても、ボタンつけを学んでいるため自分でできます。</p> <p>先生に真面目についていき、小学校と中学校の授業をしっかり身につけることで、世の中で生きていくのに困らないだけの基礎的な力を、皆さんはこの学習指導要領と教科書を通して学ぶことができます。</p> <p>このような素晴らしい日本の教科書と義務教育ですから、先生に皆さんもしっかりついて学び、自分の人生の土台を築いていただきたいと思います。</p>
8	2020年東京五輪に出場する可能性のある児童・生徒がいた場合、どのような支援をしようと考えていますか。	<p>オリンピックに出場する可能性のある児童や生徒への授業以外の支援についてですが、今のところ、特定の人の技術や能力を伸ばすためのアドバイザーなどの派遣は練馬区では考えていません。これは、オリンピックに出場する可能性のある児童や生徒の多くは、既に特定のスポーツクラブや団体に所属していて、コーチや先生のもとで日々練習に取り組む、大会などに参加して、そして強化選手として指定されていることが多いからです。このため、教育委員会として技術強化のための支援をするケースは、今はほとんどありません。</p> <p>今後、オリンピックが近づくにつれて、出場の可能性のある児童や生徒を支援する取組が全国的に高まる可能性もあります。国や東京都の支援制度ができた場合には、練馬区教育委員会でもこれを積極的に活用して、練馬区全体でオリンピックに出場する可能性のある児童や生徒の支援をしていく必要があると考えています。</p> <p>オリンピックは、競技に出場する選手のほかに、通訳やボランティアなどたくさんの人たちが関わることで運営されています。皆さんの中からも、東京オリンピックに関わる仕事をする人が出てくるかもしれません。選手として、また通訳やボランティアなどの運営を支える人として、皆さんがオリンピックの場で活躍されることを期待しています。</p>

	質問・要望(要旨)	回答(要旨)
9	<p>今後、タブレットやパソコンなどを先生だけでなく生徒も使う学校が増えていくにつれ、教科書はどのように変わってくるのですか。</p> <p>また、教科書を使う授業とタブレットを使う授業では、何か変化はあるのですか。</p>	<p>現在の法律では教科書は紙でなければならないとされていますが、文部科学省は先月、デジタル教科書を学校で使えるようにしようと、専門家による話し合いを始めました。デジタル教科書とは、紙の教科書のデータをそっくりタブレット端末に保存している教科書で、画面上で教科書の文章や挿絵を拡大・移動したり、文字を書き入れたりすることができます。さらに、音声や動画を使うことで、皆さんの理解がより深まるという利点があります。</p> <p>次に、タブレット端末を使うと授業はどのように変わるかというご質問ですが、もし、タブレット端末を児童や生徒が使うと、皆さんの答えや考え方を瞬時に先生の手元のパソコンに集めることができます。先生は、その中から、誰の意見を発表してもらおうかということ素早く判断することができます。また、皆さんが自分のノートに書いたものがスクリーンに映し出され、それを使って説明することができるようになります。また、たくさんの人の意見をスクリーンに同時に映し出し比べることも、パソコンの操作一つでできるようになります。このほかにも、校外学習などのときに、タブレットを使って気がついたことをメモしたり映像で映すこともできます。インタビューしたことを音声に残して、学校に持ち帰り、それをまとめて発表することもできます。パソコン上でレイアウトを考えながら資料をつくり、それを発表するという学習もできます。</p> <p>このように、今までよりもさらにより学習ができるであろうということで、今、取り入れる方向で検討が進んでいます。しかし、小学生や中学生などの基礎学力を身につけなければならない子供たちにとっては、紙の教科書、鉛筆やノートを使う学習の能力も大事であり、その両方をバランスよく使っていくことが大切ではないかと言われています。</p>
10	<p>来年からは、なぜ3学期制になるのですか。</p>	<p>今から7年前、皆さんが小学校に上がる前までは3学期制でした。しかし、3学期制よりも2学期制のほうがよいのではないかと話し合いを行った結果、2学期制になりました。</p> <p>先生が皆さんの通知表をつけることはとても大変なことです。一人一人の顔を思い浮かべながら、正しい評価をつけなければなりません。2学期制になると通知表をつける回数が一回減るため、その分、皆さんと一緒に過ごす時間が増えたり、教えたり活動したりする時間が増えるのでよいという意見もありました。</p> <p>しかし、2学期制に変えてから7年がたちアンケートを取ったところ、2学期制の問題点が分かってきました。例えば、2学期制では、学期の区切りが数日しかないため、子供たちが気持ちの切りかえをできません。また、年間に2回しか評価されないということもあります。3回評価するほうが、先生が皆さんを細かく評価できるという意見もありました。そこで、今回、アンケートをとり、話し合った結果、2学期制のよいところもしっかりと残しながら、新たな3学期制にしていこうということになりました。</p> <p>これから始まる3学期制は、今までの2学期制でよかったところをできるだけ生かすものです。1学期が終わると夏休みがあり、2学期が始まった後、今度は冬休みがあるので、学期ごとに気持ちを切りかえることができます。また、次の学期に向けて皆さんが長い休みを有効に使えるように、そして、計画性をもって勉強できるようにと考えて3学期制にすることにしました。</p> <p>3学期制になったら、学期ごとに、次の学期に向けて勉強していくような気持ちで取り組んでいただきたいと思います。</p>